

評価項目	評価指標	平成30年度 努力事項	自己評価①	教職員によるコメント	自己評価②	成果・課題及び改善策（○成果 ☆課題及び改善策）
教科指導、特別活動や学級経営の工夫・改善により、生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばす。	7 言語活動の充実	①小中一貫の取組として、授業における生徒の発表時に「話型」を用いるよう指導する。	3	○小中合同研修において、「基本話型」の活用を確認している。根拠や理由を添えて意見を述べる指導の徹底が、職員によって温度差がある。生徒会活動等でも活用したい。 ○授業について、学習課題の提示やまとめがきちんとできていないところがあったので、改善を図りたい。	2.6	☆基礎学力の向上と思考力・表現力の育成のバランスのとれた授業構築について見直しを行いたい。 ☆専門委員会によって、意見を述べるときに根拠や理由を明確にするよう指導した委員会とそうでない委員会があった。
		②生徒の思考力・表現力の向上を図るために、諸テストの分析をもとに、授業改善を行う。	2.9		2.7	
		③係活動や委員会活動においても、根拠や理由を添えて意見を述べるよう指導する。	2.8		2.6	
	8 生徒会活動の活性化	①生徒会役員による学校生活に関するアンケート実施により、生徒が自ら課題を発見し、その改善策について考える機会を設ける。	2.2	○学校生活アンケートは各委員会が実施し、集計後、結果を生徒集会で示すことができた。改善策について、さらに話し合いたい。 ○各専門委員会活動のねらいを明確にして実践するよう、各担当より生徒に助言していく。	2.8	○担当職員のアドバイスにより、各委員会の取組及び生徒集会の企画・運営が充実してきた。 ☆学校生活アンケートの継続的な実施と改善点への取組を行わせ、生徒会活動を自治的な活動として活性化させる必要がある。 ☆専門委員会活動を通してどのような効果をねらうのか、担当職員間で歩調を合わせる必要がある。
		②全校専門委員会の年間計画を一覧にし、見直しをもって活動させる。毎月の取組についても、効果が期待できる具体策になるよう支援する。	2.8		2.5	
	心身の健康増進と体力の向上を図る。	9 体育的行事や部活動を通じた体力の向上	①体育の授業において、スポーツテストの結果で低迷している種目（筋持久力・柔軟性）の補強運動（ストレッチ等）を工夫して行う。	3.4	○体育の授業で、ストレッチや持久走等を積極的に取り入れている。 ○立腰指導は体育の授業で行っているが、全教育活動における実践は今一歩である。今後の取り組み方を検討する。	3.3
②全教育活動を通して、立腰指導を行う。			2.7	2.2		
10 教育相談の充実		①教育相談の時間を、各学期1回、各2時間確保し、全校生徒を対象に確実に実施する。	3.9	○教育相談の時間を毎学期2時間確保して相談活動の充実を図っている。 ○2学期は生徒の希望をとり、全職員による教育相談を実施した。	3.7	○教育相談が確実に実施でき、生徒の問題解決に役立った。 ☆気になる生徒には日常的に声をかけているが、生徒から自発的に相談にくることはほとんどない。チャンス相談を実施する。
		②相談内容によっては、学級担任だけでなく、それ以外の先生とも相談できる体制をつくる。	3.9		3.6	
11 食育の推進		①学校栄養職員と連携して、学期1回食育指導を行い、食事のマナー指導や食に関するミニ講話を実施する。	3.5	○栄養職員による指導は大変分かりやすいが、生徒の食事のマナーに対する意識については引き続き指導していく。 ○保体委員会の給食に関する活動は、意欲的になってきている。	3.3	○保体委員会の生徒の取組は意欲的である。 ☆栄養職員による指導は、学年の実態に応じた内容で、大変分かりやすい。しかし、その後の取組や定着が難しかった。
		②保体委員会の生徒による、給食時のマナーに関する掲示物作成や呼びかけ等を支援する。	3.2		3	
保護者や地域社会と連携し、地域に根ざした教育を推進する。	12 小中一貫・連携教育の充実・推進	①年5回、小中合同研修会を実施し、生徒の学力向上・健全育成に努める。	3.4	○小中合同研修会を実施し、生活面や学習面について、情報交換や共通して取り組むこと等を確認している。 ○1・2学期に小中合同体育を実施し、小・中学生が協力して活動する場を設けた。 ○今年度は小中合同音楽を実施していないが、小・中学校に共通して必要な指導を行うことができています。	3.1	☆小中合同研修会における情報交換や方針の共通理解はしているが、自校の具体的実践には至っていない部分がある。 ☆基礎学力アップ支援事業についての小中連携がようやく動き出した。次年度の研究発表に向けて計画的に研究を進めていかなければならない。
		②日南市基礎学力アップ推進研究校として、小中学校で連携し、学力向上に向けた具体的取組を研究する。	3.3		3.1	
		③小中合同音楽や小中合同体育を実施し、小学生の表現活動や集団行動等を中学生が補助・支援する場面を設け、児童生徒間の連帯感を高める。	3.3		3.3	
	13 通信等を活用した積極的な情報発信	①学校通信の発行、ホームページの更新を定期的に行い、行事等に関する事前の情報発信と事後の生徒の活動成果等を保護者・地域に発信する。	3.8	○学級担任は毎週学級通信を発行している。毎月の学校だよりやホームページも随時更新している。	3.6	○学級通信を毎週1回発行し、家庭への情報発信に努めた。返信を通して、保護者との共通理解を図ることができた。
		②学級担任による学級通信、養護助教諭によるほけんだより等も定期的に発行し、学校における生徒の様子等を保護者に発信する。	3.9		3.6	
	14 地域行事への積極的参加	①「七夕まつり」の計画・準備を総合的な学習の時間に行い、全校生徒の積極的な参画を支援する。また、それに伴う地域コーディネーターへの協力依頼や市すぐれもん講座等を活用しての講師招へいを行う。	3.7	○「七夕まつり」については、地域支援コーディネーターをはじめとする地域の方々の協力のおかげで、生徒にとって充実した活動となった。 ○部活動との兼ね合いがあり、地域の行事への参加が難しいことがある。音楽部が地域で演奏する機会をいただいております、大変ありがたい。 ○門松づくりは12月下旬に実施予定である。	3.5	○門松づくりでは、生徒が大変楽しく活動でき、地域の方々とのつながりを実感できた。 ○地域支援コーディネーターのおかげで、総合的な学習の時間において地域の方々から話を聴く等の活動を円滑に行うことができた。
②PTA活動として、地域の方を講師に招き、「門松づくり」を行う。					3.7	
③地区運動会をはじめとする地域の行事への生徒の積極的参加を促す。			3.1		3.3	